

長編ドキュメンタリー映画

炎はつなぐ

上映会・監督トークショー

知られざる職人の技を求めて、
写真家・大西暢夫が全国を駆け巡った旅の記録

2026年

5月17日(日曜日) 会場 / 河野善超寺(岐阜市清本町6-1)

① 10:00~

開場 / 9:30

終了 / 13:00ごろ

② 14:00~

開場 / 13:30

終了 / 17:30ごろ

②14:00~のトークショーには、
映画にも出演された、松井本和蠟燭工房の
松井規有さんも参加していただきます！

【要申込み】 一般 2,000 円 (善超寺門徒の方は 1,800 円)

大西暢夫 (おおにし のぶお)

1968年生まれ。岐阜県池田町出身。

東京総合写真専門学校を卒業し、写真家・映画監督の本橋成一氏に師事。

29歳で独立し、その後、フリーカメラマンに。

日本最大のダム建設に翻弄される岐阜県徳山村をはじめ、全国各地のダムに沈む村の取材を同時に始める。ほかに精神科病棟に長期入院する患者さんや、東日本大震災、障害者施設や職人など、根底には、『衣食住』をテーマにしている。

- ・事前申込制となります。各回定員60名。先着順です。
- ・DVD上映です。本堂にてプロジェクターを使い上映します。
- ・椅子をご用意しますので腰掛けてご覧いただけます。
- ・映画上映後に監督のトークショーを行います。
- ・善超寺門徒のかたは、お送りした割引券を当日ご持参ください。

申込み&問合せは (flamant (フラマン)) または (善超寺) まで

フェアトレード&ロシア雑貨

flamant (フラマン)

TEL 058-216-4884



InstagramのDMへ
お名前と人数をお送りいただくか、
お電話にて。

河野 善超寺 (かわの ぜんちょうじ)

善超寺

ホームページの専用フォームにて。



『炎はつなぐ』 監督：大西暢夫 / 製作・配給：シグロ / 2025年 / 日本 / 122分

© 2025 シグロ / 大西暢夫

『炎はつなぐ』上映実行委員会

高橋勤子・高橋俊光・森靖治・高橋純子 (flamant)・河野善超寺

1本の和ろうそくができるまでには 全国の職人たちの技があった。 様々な技術が繋がっていく果てに 灯る炎のゆらぎの意味とは？

本作は、写真家としてこれまで二十数冊の写真集や著書を発表し、『水になった村』『オキナワへいこう』などのドキュメンタリー映画を製作・監督してきた大西暢夫の長編ドキュメンタリー映画の最新作になる。

ライフワークとして15年以上にわたり取材を続けてきた日本全国150カ所以上の職人たち中から30カ所に絞り込み長期取材を敢行、最終的に14の職人たちの技を映画にまとめた。

蠟の原料となるハゼの実を収穫するちぎりこさん、灯芯草から髓を抜く灯芯引き、灯芯を燃やして煤を集め墨を作る煤職人ほか木蠟職人、藍染職人、染職人などの手を経て集められた材料を使い1本の和ろうそくができる。日本の技術と文化を支えてきた伝統工芸の技が、謎解きのようにつながり、最後に和ろうそくの炎のゆらぎの意味が明かされる。



職人さんたちの手先を何度か見ていれば、何をどのようにしているのかわかってくるが、しかし使われている材料がわからないから、取材が行き詰まる。

和紙の原料はどこにあり、何をどうしているのか、藍染の原料の染すくもはどうやって作るのか、真綿は植物の綿ではなく動物性だったとか、墨は煤を固めたものからできているとか。

僕は完成品しか知らなかったのだ。

好奇心が刺激され、原料を収穫する人や、加工する職人に会いに行くが、こだわりがすごい。さらに捨てるものが出てこない。そういう職人がいてくれたことで、僕たちは本物に出会っている。一つのもが完成するまでに、多くの職人たちが関わっていることを知り、追いつけ始めたなら止まらなくなった。それぞれの集合体が和蠟燭になった。僕たちは100年前と同じ炎を見ることができているのだ。

——大西暢夫



炎はつなぐ

監督:大西暢夫
撮影:大西暢夫、今井友樹
編集:清野英樹
監音:永濱清二
グレーディング:辻智彦
音楽:宗次郎 sojiro
スチール:大西暢夫
ナレーション:大西暢夫
プロデューサー:山上徹二郎

製作・配給:シグロ
宣伝:ブライトホース・フィルム
© 2025年 / 日本 / ドキュメンタリー / 122分
© 2025 シグロ/大西暢夫

2026年
5月17日(日曜日)

① 10:00~
② 14:00~

監督トークショーあり。詳しくは表面をご覧ください。

会場 / 河野善超寺(岐阜市清本町6-1)